

本校生徒の学習及び家庭学習時間等の状況について

～平成29年度北海道高等学校学習状況等調査結果より～

1 調査の概要

- (1) 調査の名称：平成29年度北海道高等学校学習状況等調査
- (2) 調査の実施：平成30年2月～3月（本校：3月9日）
- (3) 調査の対象：平成29年度1年生 全道226校 28,279名（本校：214名）

2 調査結果の概要

(1) 入学前との意欲の変化

- ・「学習意欲が高まった」、「授業以外で学習する時間が増えた」について生徒の割合は、それぞれ75.2%、62.1%で全道平均（65.7%、56.5%）を上回った。
また、「卒業後の進路について真剣に考えるようになった」生徒の割合は、92.1%で全道平均（92.4%）とほとんど変わらなかった。他方、「諸外国の人々と交流したり異なる文化や生活習慣などを知ろうとする意欲が高まった」生徒の割合は44.9%で全道平均（47.0%）を若干下回った。
- ・昨年度との比較では、「学習意欲が高まった」生徒の割合が前年度から大きく増加した（+7.7ポイント）。ほか、「学校の授業以外で学習する時間が増えた」生徒は微増（+3.1ポイント）となったものの、「諸外国の人々と交流したり異なる文化や生活習慣などを知ろうとする意欲が高まった」「卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった」の2項目は減少となった（それぞれ-2.1ポイント、-6.1ポイント）。

(2) 各教科の状況

- ・各教科の「勉強が好き」な生徒の割合は、全道平均と比較して「国語」「数学」「英語」「理科」で上回り、「地歴公民」「専門」で下回っている。
- ・各教科の「授業がよくわかる」生徒の割合は、全道平均と比較して全ての教科で上回り、特に「理科」「専門」では大きく上回っている（それぞれ+8.6ポイント、+8.6ポイント）。
- ・昨年度調査との比較では、各教科の「勉強が好き」な生徒の割合は、「数学」「地歴公民」の2教科が上回っている。「専門」は-24.7ポイントと大幅な減少となった。また、「授業がよくわかる」生徒の割合について「数学」「地歴公民」は増加しており、ほかは減少している。特に「地歴公民」は+16.3ポイントの大幅な増加となり、「専門」は-7.9ポイントと大幅な減少となった。

(3) 平日の家庭学習時間及び読書時間

- ・平日に1日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、30.8%であり、全道平均（32.0%）をやや下回っている。また、昨年度との比較では、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合が減少している（-5.6ポイント）。
- ・平日の読書時間について、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合は44.4%であり、全道平均（54.5%）を大幅に下回っている。また、昨年度との比較では、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合は大幅に増加している（+10.1ポイント）。

(4) 休日の家庭学習時間

- ・休日（長期休業以外）に1日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、43.6%であり、全道平均（45.1%）をやや下回ったものの、昨年度との比較では、+6.9ポイントとなった。また、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合が-7.9ポイントとなった。
- ・長期休業期間に1日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、48.7%であり、全道平均（53.7%）を下回っている。また、昨年度との比較では、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合が減少している（-6.1ポイント）。

(5) インターネットの利用について

- ・平日に1日3時間以上インターネットを利用している生徒の割合は、64.0%で全道平均(52.6%)を大幅に上回っている。
- ・主にインターネットで利用するものについては、全道の傾向とほぼ似ているが、「SNS」「ショッピング」がやや高い(それぞれ+7.0ポイント、+7.1ポイント)。昨年度との比較では「SNS」「通話アプリ」が増加している(それぞれ+8.0ポイント、+7.0ポイント)のに対し、「ゲーム等」「コンテンツ」が減少している(それぞれ-5.0ポイント、-5.2ポイント)。

3 課題及び改善に向けた方策

- (1) 学習に対する意欲は高校入学前より概ね高くなっているのに対し、家庭学習時間は全道に比して低い傾向があるので、自主的に学ぶ態度を育成する指導の充実及び授業等における適切な課題の提示を工夫する。
- (2) 各教科の学習において、「よくわかる」授業の内容について分析し、研修等を通じて指導方法の改善を図る。
- (3) インターネットを長時間にわたって利用する生徒の割合が多いことから、通信物の配布や研修等を通じて家庭との連携を深め、インターネットの利用等情報通信機器の適切な使用に係る指導の充実を図る。